

2023 年度 杏林製薬医学教育プロジェクト助成報告書

1. 行った教育事業

名 称：耳鼻咽喉科・頭頸部外科手術手技教育プログラム

担当者：一般社団法人 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会

小島 博己（東京慈恵会医科大学病院長、耳鼻咽喉科学教室教授）

本プログラムは、臨床研修医、専攻医を対象に耳鼻咽喉科・頭頸部外科手術手技の向上を目指し、耳科・鼻科・頸部・喉頭気管の4つの領域で、下記のとおり開催した。

- 1) 第124回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会（2023年5月19日）にて、耳科&鼻科、頸部、喉頭気管の4つの領域、3コースで、それぞれ側頭骨・鼻副鼻腔・頸部・喉頭気管のモデル等を実際に使用し、耳鼻咽喉科に興味のある臨床研修医と医学生のレベルに合わせた丁寧なレクチャーを実施した。
- 2) 各コース1時間で午前1コマ、午後2コマとし、耳科&鼻科コース60名（体験者30名、見学者30名）、喉頭気管30名（体験者15名、見学者15名）、頸部30名（体験者15名、見学者15名）、計120名（体験者60名、見学者60名）の募集を行い、実施した。
- 3) 参加者は男性70名（体験者37名、見学者33名）、女性44名（体験者21名、見学者23名）の計114名（体験者58名、見学者56名）で、医学生（全て6年生）は44名（体験者23名、見学者21名）、臨床研修医は70名（体験者35名、見学者35名）であった。

2. 成果（教育効果の測定結果を含む）

ハンズオンレクチャーの前後に受講者に5項目のアンケート調査を行った。

各項目、0点：全くできない（思わない）から、10点：十分できる（とてもよくできる）の11段階とし、受講生に選択してもらった。各項目の平均点を示す。

	講習前	講習後
1) 手術に自信があるか	1.8	4.5
2) 解剖を理解しているか	2.1	4.9
3) 手術手技は習得できているか	1.6	4.5
4) 内視鏡・顕微鏡の使用はマスターしているか	1.3	3.9
5) 手術器具の使い方はマスターしているか	1.5	4.6

以上のように、受講者自身、まだ耳鼻咽喉科手術の経験が十分でないため、受講前の点数は低いですが、ハンズオンセミナー後は、各項目で有意に自分に対する評価が上昇し、教育の効果が得られた。

参加者のセミナー終了後の感想は、下記のとおり、全てポジティブな意見であった。講師の丁寧なレクチャーが、高評価を得られた原因であると考えている。

- ・先生方が丁寧に熱く教えてくださり、興味が深まりました。ありがとうございます。
- ・シミュレーションで経験したことで理解度が上がったと感じました。
- ・見学だったにも関わらず空いた時間に実際に模型を触ることができて大変貴重な体験ができました。
- ・実践的でとてもためになりました。ありがとうございました。
- ・学生では中々体験出来ない貴重な体験でした、ありがとうございました。
- ・とても丁寧に教えて頂き、楽しく学ぶことが出来ました。(多数)
- ・とても有意義な時間となりました、ありがとうございました。
- ・普段体験出来ない事をさせて頂きました。
- ・見学でしたがたくさん経験させて頂きました。ありがとうございます。
- ・見学で色々質問に答えていただき楽しかったです。
- ・見学だけの予定でしたが、いろいろやらせてもらえて参加して良かったです。

ハンズオンセミナーの講師に関するアンケートでは、ハンズオンの重要性を再認識するとともに、指導する楽しみが多く述べられ、継続性を要望していた。機器と人材を提供した機器メーカーの参加者も同じようにハンズオンの熱気に興奮し、非常に楽しく、教育への貢献をした充実感を述べていた。

以上から本医学教育プロジェクトは、受講者、指導者、サポート側、三位一体の充実感が得られ、非常に有意義な教育事業であった。

2023 年会計報告書 書式

(1) 収入

項目	金額
自己資金	2,500,000 円
杏林製薬医学教育プロジェクト助成	5,000,000 円
合計	7,500,000 円

(2) 支出

項目	金額
運営費用（例：会議費、運営・管理費等）	2,851,086 円
医学教育プログラムの案内に関する費用 （例：案内状、招待状、受講申請書等の作成費等）	220,000 円
教育資材等作成費等	1,812,699 円
設備備品	544,005 円
講師費用（例：謝礼、交通費、宿泊費等）	2,023,170 円
認定費（医学教育プログラム受講完了に関する認定費）	22,000 円
その他費用	29,184 円
合計	7,502,144 円